

2019年度「研究者の横顔」レポート

氏名：立石健祐

1. 研究者になるうとしたきっかけ

脳神経外科医として勤務している中で、多くの脳腫瘍患者さんの治療に携わる機会がありました。標準的治療を行っても功を奏しない患者さんに多く直面する中で、少なくとも何故病気が治らないのか、その背景を深く学ぶ必要があると感じ臨床の傍ら研究を始めました。

2. 助成研究の内容紹介

中枢神経原発悪性リンパ腫（PCNSL）とは中枢神経に限局して発生した悪性リンパ腫を指します。これまで多施設共同研究を通じてPCNSLには特定の遺伝子異常が高頻度に認められことを見出してきました。しかしながらこれらの遺伝子異常がどのように腫瘍の発生や悪性化に関わるかなど不明な点が数多く残っております。これらの疑問を明らかにするために私どもは患者さん由来のPCNSL腫瘍モデルの樹立を試みてきました。今後これらのモデルを活用することで病気の解明とともに新しい治療法の開発につなげる研究を行っていきたいと考えております。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

何故PCNSLが発生するのか、どうして悪性化するかななどの病態を明らかになること、また従来の治療法より治療効果が高く、かつ患者さんに優しい治療法の開発につながることが期待されます。

4. 全国のRFL関係者に一言メッセージ

この度は私どもの研究を御採択いただき、また研究を行う機会を頂き心より御礼申し上げます。RFLの活動に関係する皆様のご支援に報いるためにも精一杯研究を行い、いつの日か研究の成果を通じて病気に苦しむ患者さんの未来に貢献できるよう努めて参ります。